

校訓	真善美	平成31年度学校だより	発行日	令和2年3月26日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 —豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる—	「荒中だより」 第33号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

頑張れ!!荒中生!!

3月3日からの長い休みはいかがでしたか？少し時間を持て余した人も多いか
と思います。コロナウィルスによる社会への影響が、これからどうなっていくのか
今は不透明です。大事なことは正しい情報^{もと}に基づいて適切な行動をとることです。

そのためには、何が正しい情報なのかを見極める力を
持っておかなければなりません。そのような力をつける
ために皆さんは勉強をしているのです。先が見えない

世の中だからこそ、しっかりと力を蓄^{たくわ}えてください。



3月10日に、規模を縮小して卒業式を行いました。とても厳^{おごそ}かで素晴らしい卒
業式になり、先輩たちは堂々と巣立っていきました。その時に話した皆さんの先輩
荒井祭里^{あらいまつり}さんのことについて書きます。

荒井さんは、中学3年の夏に行われた全国中学校体育大会で日本一になり、藤原
市長への優勝報告会で、「4年後の東京オリンピックを目指して日々精進^{しょうじん}します」
と静かに、力強くその決意を語られていました。その夢が実現しようとしています。
しかし、いつも順風満帆^{じゅんぷうまんぱん}だったわけではありません。

その冬、荒井さんは飛込みを続けるかどうか悩んでいました。一つ先輩に絶対的
王者の板橋さんが存在する中で、長期間学校を離れて合宿に参加することへの葛藤^{かつとう}
や不安があったのです。この時はクラスの友達を書き写したノートをお母さんが
画像で合宿先へ送り、練習の合間に勉強を続けたそうです。『辞めたい』と思うこと
が何度もあったそうですが、ご家族や友達の支えが彼女の気持ちを前に向かわせた
のです。ある時お母さんが当時の担任に、「オリンピックに出るほど素質のある選手
ではありません。ただ、真面目にコツコツ取り組むことだけが取り柄ですから」と
おっしゃっていたそうです。

「あきらめ癖がつくので、何事も途中で投げ出してはいけない」と言います。しかし、『三日坊主』という言葉もあるように、人はなかなかやり始めたことを継続することができません。私は**コツコツと努力を続けられることは素晴らしい才能**だと思います。『努力は裏切らない』と言いますが、皆さんの人生も、自分の選んだ道をあきらめずに努力し続ける人生であってください。

さて、この一年を振り返ると、日々の学校生活や様々な行事を通して、皆さんは実に多くのことを学び、大きく成長してきました。皆さんだけでなく、先生方も多くを学び成長できたとも感じています。そもそも、人はなぜ『学び』、そして『成長』しようとするのでしょうか。ここで、アメリカのオバマ前大統領が、全米の小、中、高校生に呼びかけた演説の一部を紹介します。

「今日私がお話ししたいのは、教育に対する皆さん一人ひとりの責任についてです。皆さんが良い仕事に就くためには、そのための教育を受け、努力をし、学ばなければなりません。そして、これは皆さん自身の人生と将来のためだけに大事なことでありません。皆さんが教育から何を得るかによって、まさにこの国の将来が決まるのです。皆さんがあらゆる授業で身につける想像力や創意工夫の能力が、国を発展させるのに必要となります。皆さんがこうした努力をしなければ、自分の国を見捨てることになります」と、2009年の新年度始業式に語りかけました。

皆さん一人ひとりの「学ぶ」という行為は、**自分の将来のためだけではなく、社会がよりよく発展し、多くの人が幸せを得るためにも大切なもの**であるということです。それをオバマ大統領は「責任」という観点から語りかけました。

さて、先行きはわかりませんが、4月からは新しい学年、新しい友や先生方との出会い、新たな「学び」が始まります。皆さんのこれからの「学び」と、限りない「成長」に心から期待しています。**頑張れ!! 荒中生!!**



自信と誇りを持てる学校を創ろう!!